

2022年度 事業報告

一般財団法人 芙蓉協会

1. はじめに

2022年度も流行が続く新型コロナウイルス感染症についてコロナ対応病床を増床し、入院の受け入れを行った。また、従来から実施している発熱外来、ワクチン接種も継続し、職員が3年間で学んだコロナ禍の教訓から感染対策を実践することで医療・健診・在宅の事業を止めることなく活動することができた。地域に向け、サービスを提供することで、地域貢献のための法人使命が迫及できている。2022年度は医師、看護師など医療従事者の採用が困難の中、全ての職員がコロナ感染症への対応をしたことに感謝する一年であり、5類感染症に引き下げられる2023年度より with/after コロナで活動をしていく。

病院については、4月の診療報酬改定により地域包括ケア病棟への施設基準要件が大きく変わり、ベッドコントロールの運用を見直した。超高齢化社会にサブアキュートの患者の受け入れは今後の課題であり、関係機関とのネットワークを構築し、その仕組み作りをしていく。逼迫した医療が続いたことで看護師の離職に繋がり、勤務環境の改善と採用力強化・離職防止への取り組みを開始した。

健診センターについては、新健診システムへの更新が職員に大きな負担となった。不安定な新システムでの運用で結果処理の大幅な遅延が発生し、職員はその対応に追われた。しかし、センター全体で業務の再構築を行い、従来よりも効率的な運用が可能となり、業務改善に繋げることができた。

「健康経営ブランディング」戦略においては、ホワイト500等の第三者評価の取得によりブランド力を向上することができた。特にISMS-PIMSについては医療保健業界では国内初認証となった。

在宅事業に関しては、2020年度より、がん末期患者や重症度の高い小児などからのニーズが高く、認定看護師、特定行為研修終了看護師を中心に積極的に受入れた。さらに障害者グループホームや高齢者施設などサービス提供範囲を拡大し、看護師、介護士、リハビリセラピストによる総合サービスを展開した。地域のニーズが多く、希望に応えることができない期間が一時期あったが利用者には迷惑をかけることなく職員の熱い思いで運営できている。

経営面においては、2021年から続く原油高とそれに伴う電気代等の光熱水費の値上がりに加え、食材料費をはじめとする物価高騰が大きく影響した。コロナ補助金はあるもののコロナ感染症への対応による経費増や利用者の受診控えによる収入減により経営基盤は不安定であった。この難局を職員一丸となり増収・費用削減に取り組んだ結果、6期連続して当期純利益は黒字を計上することができた。

職員の労働環境整備については、管理棟熱源機の老朽化による空調設備とLEDへの更新を行った。

団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年が間近に迫り、労働力の減少、社会保障費の急増、在宅患者や認知症高齢者の増加が問題視され、法人の目指すべき方向性の検討が必要となっている。どの時代も地域のニーズに柔軟に対応してきており、今後も職員の力を結集し、連携による「聖隷」ならではの一体化したサービスを提供し、地域貢献を目指していく。

2. 聖隷沼津病院

2022 度は、引き続き新型コロナウイルス感染症への対応を積極的に取り組む方針の下、職員一丸となってワクチン接種や発熱外来等、地域の様々な要請に応え続けてきた。

コロナ病床の確保にあたっては、静岡県の特徴に応じて段階的に増床し、協力医療機関から重点医療機関へ体制を整備し 10 床を確保した。当院にとっては最大限のコロナ病床を確保しながら地域から求められる診療機能の維持に努め、約 2,000 名のコロナ陽性患者を受け入れることができた。しかしコロナ第 7 波の 8 月には家庭内感染等による職員の出勤制限があり、12 月には一部の病棟でコロナ感染症による院内クラスターが発生し、当該病棟への新規入院を一旦制限した。思うように病棟運営ができない中であつたが過去の経験が活き、最小限で終息することができた。人員に余裕のない中でもコロナに立ち向かった職員に敬意と感謝を表したい。

コロナ禍により職員間でのコミュニケーション不足も影響し、2021 年度を超える離職者が発生した。離職理由には様々あるが、職員が健康で働きがいを持って活動できる環境整備、体制整備が必要である。さらに、働き方改革を実践するために業務の効率化、長時間労働の削減、タスク・シェア/シフト、DX の推進を進めなければならない。職員の平均年齢も増し、職員の活力向上や生産性の向上など自院の組織が活性化できるよう採用力強化と離職防止にも取り組んでいく。

経営面においては、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化によりエネルギーや原材料価格の高騰につながり自院も大きな影響を受けた。衛生材料、消耗品、食材費等は一律値上げの動きが広がり、光熱費は対前年比約 4,000 万円増に及んだ。価格交渉や代替品への切り替えなどを行ってきたが、この動きは暫く継続すると予想しており、使用量を可視化し、職員一人ひとりに費用削減意識を浸透していく。4 月の診療報酬改定は、当院の特色の一つである地域包括ケア病棟の施設基準要件が変更され、一定数の直接入院や急性期病棟からの転棟制限が加わった。本改定は 2021 年度下期より予想しており早期に対策したことで減算されることはなかったが地域包括ケア病棟を満床にすることはできずベッドコントロールに苦慮した。コロナ対応に係る補助金収入等を加え、収入全体が支出を上回る結果であつた。

病床稼働率向上については、コロナ病床確保の制限がある中で、職員は単科病棟でなく混合病棟と位置づけ病床を有効活用した。地域全体の救急車出動件数が多かったこともあり、入院移行率 60%の自院は 1 月に過去 10 年間で最多の 139 台を受け入れることができた。外来患者数は、コロナ禍前に戻ってはいないが受診控えも緩和されつつある。コロナ禍の影響を受けてか生活困窮者の相談も増加しており、かねてから実施している無料低額診療事業にて医療費減免を患者に適した運用で実施している。

2022 年度の活動を通じて自院で取り組むべき課題が明確になった。事業を継続するための人材育成と採用、急性期病院として地域に貢献するための救急患者・紹介患者の受け入れ、地域の病床として地域包括ケア病棟の有効活用、健診・在宅と連携し法人としての総合サービスの提供、そして with/after コロナを見据えたコロナ対策。これら以外にも数多くあるが、中期事業計画 2021-2025 で立案した“当院の目指す「あるべき姿」”の達成に向けて、患者、職員、経営の三方良しの精神で計画を実践していく。

	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
入院 1 日平均患者数 (人)	197.3	212.0	192.3	-19.7	-5.0
単価 (円)	48,413	47,900	50,039	2,139	1,626
病床稼働率 (%)	80.2	86.2	78.2	90.7	97.5
外来 1 日平均患者数 (人)	535.2	549.5	540.0	-9.5	4.8
単価 (円)	20,255	20,050	19,707	-343	-548

3. 聖隷沼津第一クリニック（聖隷沼津健康診断センター）

2022年度は、中長期計画の2年目にあたり、コロナ禍での環境の変化に適応した経営構造の構築と経営の安定化のための仕組みの再点検を行う年になるはずだったが、新健診システムの稼働不良により結果処理の大幅遅延という経営危機に見舞われた。そのため、センター全体で業務の再構築を行い、この経営危機に対応し、通常通りの経営状態へ復帰させた。コロナ禍と結果大幅遅延の危機を乗り越えたことで、顧客との信頼関係が更に強まった年であった。経営危機の回避にすべての機能能力を費やさなければならぬ中、医業収益での予算達成はかなり厳しいものだった。しかしながら当期純利益で、予算を上回ることができた。これも信頼関係を培ってきた健保・企業・地域の皆様の心強い後押しと職員の周知の結集が掴み取った成果と確信している。

健康経営優良法人制度では、『ホワイト500 2023』を認定取得し、2017年から連続で500位内を維持している。また『スポーツエールカンパニー 2023 ブロンズ』を認定取得し「健康経営ブランディング」戦略でのフラッグシップを示すことができている。情報管理の保護と利活用においても、『ISMS-PIMS』を医療保健業界では国内初となる認証取得することができた。

2023年度は、健康経営ブランディング戦略を更に推し進めて、企業・健保様から保健事業は、「費用ではなく投資である。」と意識して頂ける年にしていく。投資の結果としての成果にコミットしていく。すなわち事後管理の充実、特に要精検受診率、特定保健指導の実施率、改善率の向上に大きく力点を持っていく。「成果が見える！成果が感じられる！成果が伝わる！健康経営のパートナー！」として誰もが長く活躍できる社会への貢献を行い、引き続き健康経営ブランディング戦略を推し進めていく。中長期計画で立案した環境の変化に適応する経営構造の構築と経営の安定化を進め、地域から必要とされる保健事業の使命の追求を推進する。

	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
施設内受診者数（人）	83,699	84,137	80,545	-3,592	-3,154
施設外受診者数（人）	50,556	45,160	41,984	-3,176	-8,572
外来受診者数（人）	4,305	4,140	3,480	-660	-825
単価（円）	11,979	12,000	12,632	632	653

4. 在宅サービス事業（聖隷訪問看護ステーション千本・看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町）

2022年度は訪問看護・看護小規模多機能型居宅介護（看多機）とも前年より増収し、予算達成できた。これは在宅事業部が目指した大型化、多機能化、質の向上にあると考える。

例えば24時間365日サービスを安定的に提供するには、看護師をはじめリハビリ、介護スタッフの確保が重要である。訪問看護師や理学療法士の中途採用や新卒採用ができたことは大きかった。また、サービスの提供の場の拡大も重要で、障がい者のグループホーム、放課後デイサービス、有料の高齢者施設への訪問など多岐にわたったことは訪問回数の増加につながった。そして、サービスの質の向上は欠かせない。特定行為修了看護師、緩和認定看護師など専門性の高い看護師を育て、専門管理加算を取ることで収入増につながった。

在宅サービス事業にとって地域での連携は欠かせない。連携の中で看多機への紹介へつながる。沼津市には3つの看多機があるが二つが休止状態であり、看多機緑町の果たす役割は大きい。

2022年度も看護師の出向事業を行い、静岡医療センターに当ステーションの緩和認定看護師が出向した。東部地域の中核病院で難病センターでもあるが、今まで紹介が少なかった。しかし、在宅サービス事業の内容を伝え顔の見える関係をつくることで利用者の紹介につながっている。今後も、在宅サービス事業部の特性を活かし地域貢献していきたい。

聖隷訪問看護ステーション千本	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
医療保険 利用者延べ数 (人)	5,257	5,160	5,717	557	460
単価 (円)	11,959	11,800	11,629	-171	-330
介護保険 利用者延べ数 (人)	8,889	8,760	9,724	964	835
単価 (円)	9,515	9,400	9,170	-230	-345

看護小規模多機能居宅介護事業所せいれい緑町	前年実績	予算	実績	対予算差	対前年差
延べ契約者数 (人)	298	312	314	2	16
単価 (円)	365,960	366,000	381,840	15,840	15,880

【2022 年度の主な行事】

法人全体

行 事 内 容	実 施 日
新入職員オリエンテーション	4月1日・4日
監事監査（決算）	5月14日
理事会	5月18日、11月22日、3月13日
評議員会	6月13日
新人職員研修	6月17日～18日、1月27日
2年目職員研修	7月8日
中堅職員研修	5月27日、7月28日、8月26日 9月28日、1月27日
聖隷福祉事業団による関連法人外部監査	6月8日、1月11日
スポーツエールカンパニー2023 ブロンズ認定	2月17日
健康経営優良法人 2023（大規模法人部門（ホワイト500））認定	3月8日

聖隷沼津病院

行 事 内 容	実 施 日
施設基準等に係る適時調査（東海北陸厚生局）	9月27日
医療安全研修（web開催） ①医療事故調査制度の概要の概要と当院での対応について ②誤認防止について	① 6月1日～6月30日 ②12月1日～1月3日
院内感染研修（web開催） ①CB2201 標準予防策 ～院内全体で取り組もう～ ②インフルエンザ対策 Up to date 2022 ～新型コロナウイルス感染症も含めて～	① 7月1日～7月31日 ②10月3日～10月31日
第34回 聖隷沼津学術集会 （千本プラザ・第一会議室・食堂・web配信）	11月3日
たん医療的ケア研修（web講習、実技・筆記試験）	5月16日、7月15日、7月22日 7月23日、8月8日、9月5日 9月16日、9月17日、10月3日 11月21日（年10回）
地域包括ケア連携懇話会	6月21日、11月25日
防災訓練（火災・総合）	7月26日、11月18日
電気設備定期点検（A棟・B棟・管理棟）	5月21日、10月16日、3月25日

聖隷沼津第一クリニック（聖隷沼津健康診断センター）

行事内容	実施日
教育「健康経営の推進 2022」	4月6日
教育「検体検査の取り扱い、遠心分離方法について」	7月1日
緊急連絡網（安否確認システム）訓練	7月28日
教育「ISMS-PIMS 拡張の理解」	10月3日
ジャパン・マンモグラフィ・サマデー	10月16日
地震（津波）想定防災訓練	11月18日
感染対策「手指衛生」セミナー	12月1日
教育「ISMS 研修 2022」	1月6日
ISMS（ISO/IEC 27001:2013）維持審査	1月10日～11日
安全運転講習	1月26日
ISMS-PIMS（ISO/IES 27701:2019）拡張審査	2月2日～3日
教育「マーケティング研修」	3月22日
火災想定防災訓練	3月25日
日本人間ドック学会「人間ドック・健診施設機能評価」更新審査	3月27日

在宅サービス事業部

（聖隷訪問看護ステーション千本・看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町）

行事内容	実施日
静岡県訪問看護ステーション協議会・地域情報交換会 講師	6月～
日本死の臨床研究会 ポスター発表	11月26日～27日
看護協会訪問看護出向研修支援事業 実践報告会ポスター発表	3月4日
静岡県訪問看護ステーション協議会・小児看護 講師	7月～
特定行為やらまいか浜松 パネラー	11月
静岡県立大学・富士病院・特定行為研修共催セミナー 講師	3月～